

# K O Σ M O Σ

Vol. 13, No. 1 (No.40)1978. 4. 15

## 何ができるかしれないが

——図書館長就任にあたって——

飯 島 宗 享

これまで私は図書館から研究室に持ちこんだ書物を利用するばかりで、図書館で調べものをするときでも助手を煩わせたりして、みずから図書館に足をはこぶことは稀でしかなかった。したがって図書館の内情にはなはだ疎い。そんな私が、降って湧いたように図書館長の職に擬せられたのだから、われながら驚いた。

一年間の研究休暇を与えられたあとだから、そのうちには何か厄介な仕事の一つぐらいは背負わねば同僚に対しても義理が立たぬとは思っていたのだが、私の思惑からすると早すぎたし、皮肉な職でもあった。人生はしばしば皮肉だから、私の疎い図書館のことをやれという皮肉が、面くらいながらもむしろ痛快に思えて「そんなら、ひとつやってみるか」という気を私に起させたようである。

現に図書館にどんな問題があって、将来にむけてどんな課題を負っているのか、今はまだ私は何も知らない。私の知っているのは、大学図書館が教職員・学生を通じて全大学人の研究・教育にかかわる秘要なサービス機関であり、したがって大いに活用されることを眼目に運営されるべきであるということ、またその充実の方向も大学全体の長期・中期の展望と当面の必要に応じて構想されるべきであるという基本的なことだけである。

幸い現在の図書館にはそれぞれの職域で熟達した職員に事欠かないと聞いているので、それらの方々の経験に足がかりを求め、各学部教授会と学生たちの要望を承りながら、館員が一つの意志を導出して積極的活動のうちで大学全体の期待にこたえる気運を作り出すことができれば喜ばしいと思う。個々の局面ではさまざまに矛盾もあろうし、実際に私に何がやれるかはまったく覚束ないが、図書館職員の熱意と諸先生方の御助言を頼りに、四月から現状把握を手始めに私にできるだけのことをしようと思っているので、各方面からのお力添えを願う次第です。

巻頭言	1
特集 私のすすめる 一冊の本	1
朝霞分館だより	4
工学部分館だより	5
図書館長選任規程 蔵書から	5 6
参考図書解題	7
日誌(52年12月～ 53年3月)	8

# 特集 私のすすめる一冊の本

今年も新学期が始まり、研究、サークル活動等々希望に満ちた日々を送っていることと思います。さて図書館では今回図書選択委員の諸先生方にお願ひし、「私のすすめる一冊の本」と題する特集をいたしました。学生の皆さんにとって有益な指針となることと思ひます。

(注：掲載は執筆者のアルファベット順・文末の記号は請求記号)

カール・マルクス著  
岡崎次郎訳

「資本論」

大月書店

阿部照男  
(経済学部助教授)

私は経済学の研究に携わる者の一人である。だからここでは、その立場から、経済学部の新入生を念頭において、「すすめる本」を挙げるべきだろうと思う。

経済学における三大著作を挙げようとする、アダム・スミスの『諸国民の富(国富論)』(1776年)、カール・マルクスの『資本論』(1867年)、それにアルフレッド・マーシャルの『経済学原理』(1890年)であろう。

いま経済学は、新たな地平を求めて模索をしていると思われるが、「新しい経済学」を築くためにも、これら古典に立ち返る必要がある。まさに温故知新である。

私はこの三著作を一セットにしてすすめたい心情であるが、「一冊の」という限定であるから、それもかなわぬ。今回は『諸国民の富』を挙げたので、今回は、『資本論』を「すすめる」ことにしよう。但し、初学者は、まず手頃な解説書に目を通してから、本物にとりつのがよいだろう。

翻訳書は岩波書店、大月書店などから、何種類か刊行されている。

[331.34:MK:9(大月書店), 331.34:MK:17(岩波書店)]

大久保泰甫著

「ボワソナード」

岩波新書 黄版33

荒井貢次郎  
(法学部教授)

日本近代史に興味をもつ諸君へ、必読の書として、この本(昭和52年12月・刊、¥280)をおすすめします。著者の

大久保氏は、フランス法制史、比較法制史専攻の

中堅学者・名古屋大学法学部教授だ。本がえがく、主人公のフランス人・ボワソナード(Gustave Emile BOISSONADE de Fontarabie 1825~1910)は、フランスの法学者で、パリ大学教授だ。

彼は、明治6年(1873)に来日し、日本の立法事業(旧刑法・治罪法・旧民法)や法学教育(自然法の立場による)に巨大な足跡をのこした。旧刑法は、彼が原案を作り、そこに近代的罪刑法定主義を確立した。また、旧民法の草案を起草し、日本人が修正し、公布となったが、民法法典論争にあい、施行は延期となる。彼の業績で注目されるのは、彼が、明治8年(1875)、偶然に、拷問の現場を目撃し、全人格からほとばしる情熱をもって、残虐な拷問廃止の理由書を司法卿に提出・建白し、拷問が正式に廃止されたのは、明治12年(1879)10月8日・太政官布告・第42号による。彼は、明治28年(1895)に帰国、パリ日仏協会名誉会長だった。(320.235:OY)

瀬沼克彰著

「余暇の社会学」

文和書房

井上博文  
(短期大学ホテル観光  
学科助教授)

余暇活動について、大変話題になる最近である。人間社会の中にあつて余暇活動は、例えどんな形にせよ、ますます

増大されることであろう。また、その必要性が叫ばれている中で余暇についての文献は意外と少ない。本書は余暇を社会科学的に探求し、これからの社会に何故、余暇活動が必要になるのか、各方面からわかりやすく示めそうとしている点、新入生にも薦めたい。

余暇研究は従来、時間、活動、費用、財政、世代、運営等々の座標軸上で解明しようとされてきたわけであるが、現在のような経済の低成長下に

あっても、余暇問題はますます大きな問題となっている。このような点を筆者は、大衆余暇の諸相の中で実際の調査活動から得たものを基にして論考しようとし、日本の余暇状況を青少年と余暇、企業の余暇開発、余暇行政等、多面的な視点から分析を加え、その未来への展望を考察している。

(発注中)

ウォーレス・F・スミス著 池田亮二監訳 「住宅問題；その社会 経済的要素」 鹿島出版会 前田尚美 (工学部助教授)
---

原著者スミスは経済学者であるが、翻訳者たちは建築、都市工学の専門家たちである。住宅建設投資の政策的な意味や

計画技術上の問題を経済的側面で説明しようというのが本書の内容である。米国の事情が書かれているが、スミス氏は日本に留学し、彼の妻は日本人なのである。日本の事情についても間接的に記述されている。本書は米国の大学の教科書であり、初歩的な解説からはじめられている。興味ある点は、狭義の専門分野意識や国家意識を持たないで資本主義国における住宅問題の調和的な施策を考えているところであろう。学部いずれに属する学生諸君でもそれぞれの関心に相当にこたえてくれる教養的な意味が大きい。なお、翻訳者の一人である田沢則男氏は本学建築学科47年卒であることを付記しておく。

(発注中)

甲斐道太郎、乾昭三、 椿寿夫編 「民法判例(1)；総則 物権」 有斐閣双書 三野陽治 (法学部教授)
--

大学に入って新入生が最初に民法を学ぶのは民法総則である。民法総則は民法全体の通則を体系的に包含するもので、

学年が進むにつれて物権債権さらに親族相続と勉強して行くことになる。民法を学ぶためには民法全体を理論的体系的に把握することが大切であることは当然であるが、これとともに具体的な生活関係に民法が如何に適用されているかを知るために判例を研究することも必要である。このような目的のために本書は非常に適していると思う。本書にはかなり古い判例から最近の判例まで重要な判例が選び出されており、項目ごとに事実と判旨が述べられている。さらに民法判例(2)債権(3)

親族相続として本書全三巻が刊行されているので民法全体の判例を勉強するためにもよく、これから民法の各領域を勉強して行く場合に参考となる。本書により知り得た個々の判例をくわしく研究するのもよいであろう。

(発注中)

芝原拓自著 「世界史のなかの明治維新」 岩波新書 黄版3 大島藤太郎 (経営学部教授)
---

幕末・明治維新の物語は大衆小説やテレビのドラマとして大変人気がある。これはなぜだろうか。そこには現在私達が

生活している日本の近代社会の「生みの苦しみ」があるからである。英国の青少年にとってのロビンフッド物語、アメリカ人にとっては、白人が土着のインディアンを追い払って行く西部活劇と同じ意味をもっている。黒船の圧力で開国はしたけれども、物価が騰貴し民衆の生活は苦しく「御政事売切れ申し候」となった。

こうした幕藩体制の危機を土台として西南雄藩の尊皇倒幕運動が展開され、「世直し」が実現し、「御一新」となった。士農工商という身分の差別はなくなり、農民の土地所有は認められ、職業の転換や武士と町人の結婚も自由となった。しかし他方において、皇族・華族・士族・平民という新しい身分の差別が作り出され、地租のように税金は重く、征台・征韓の役が起され、白人文化崇拜と裏腹に東洋人に対する優越意識が生れ、ここからその後の日本の民衆の生活における矛盾と悩みが発展してくる。本書はこうした性格の明治維新を国際関係を重視しながら政治の舞台を中心に解明している。有名作家の明治維新物語を楽しむわれわれは、本書によって明治維新の全体像を理解することができ、そこには日本社会の特質が要約されている。

(210.61：S T-3)

江守五夫著 「愛の復権；切り離された愛と性」 大月書店 高橋統一 (社会学部教授)
---

かつてはタブーであった愛や性をめぐる思想や行動は、いまやジャーナリズムに汨濫している。性教育の専門家と称する

人々の評論も、あれこれと少くない。しかし、性の解放を謳いながら性の泥沼に溺れ、これを自

由恋愛と錯覚する人々、ことに性と愛のはざままで混迷する若者たちに説得力ある指針と示唆を与えられる書物は、いざとなると案外ないものだ。

江守氏は法社会学・社会人類学者でそのカバーする領域は極めて広く、また精密な分析と体系的な論述で多くの論文・著書を書いておられるが、本書は人類が家父長制との永いたたかひの末に獲得したく愛>こそが、男女を律する根本的価値基準であるという婚姻=家族の思想史的観点にたつて、今日の混乱する性の解放に警告を発した一種の啓蒙書である。著者の学識と今日を視るしたたかな洞察が、このような秀れた書物を生み出したと云ってよい。若い学生諸君に是非一読をお薦めしたい。(発注中)

荒畑 寒村著 「谷中村滅亡史」 新 泉 社 暉 峻 凌 三 (文学部教授)
---

明治10年代にはじまる足尾鉍毒問題は20年代以降激化するが、政府は、抵抗の最後の拠点であった栃木県谷中村を力づくで地上から消し去ることによって、これを解決しようとした。この本は荒畑寒村(1887~)が20歳

歳のとき(1907)著した「政府・資本家、共謀の罪悪」としての鉍毒問題にたいする告発の書であり、当時刊行と同時に政府によって発禁となった。鹿野政直氏は本書を、横山源之助「日本之下層社会」(1899)、そして細井和喜蔵「女工哀史」(1925)とともに「日本の社会科学の古典」にかぞえており、これらの著作がいずれも大学の外部での産物であることに注意をうながしている。こんに

ちこの本をどう読むか、これについての著者自身のかんがえは、「足尾鉍毒事件と現代の課題」(荒畑寒畑村著作集 第1巻所収、平凡社)で読むことができる。(519.5:A K)

宇尾 淳子著 「生物時計をさぐる; 私とゴキブリと」 蒼 樹 書 房 山 岡 景 行 (文学部助教授)
--

「腹時計」、この言葉を耳にしたことのない人はまずないであろう。しかし、それが近代科学の対象となりうるものであることを知っている人ははたしてどのくらいいるであろうか。ヒトを含む全ての生物は体内時計と呼ばれる計時機構によって、生命活動を昼夜の周期的変化に同調させてきた。本書は体内時計の研究史上、時計の駆動部の存在の場を始めて明らかにした女性研究者の自伝風エッセイである。ただし、研究対象はゴキブリである。この研究は国際的に高く評価されている企画的なものである。しかし、本書は専門書ではない。中心課題は、ひとりの国際的自由人の国際的「出稼」の記録であり、かつ、ひとつの研究が完成してゆく様の赤裸々な記録である。読者は本書の専門的内容にとらわれる必要はかならずしもない。ひとりの女性科学者が国際舞台を背景にして世界的に認められる仕事を成しえた経過と、研究者の喜びと苦悩を、さらに激しい業績争いに明け暮れる世界の若手研究者の姿を読み取ることができるはずである。この意味で本書は貴重な研究記録である。ともかく、肩のこらない楽しい科学随想として本書をおすすめる。(481.5:U J)

あることを知っている人ははたしてどのくらいいるであろうか。ヒトを含む全ての生物は体内時計と呼ばれる計時機構によって、生命活動を昼夜の周期的変化に同調させてきた。本書は体内時計の研究史上、時計の駆動部の存在の場を始めて明らかにした女性研究者の自伝風エッセイである。ただし、研究対象はゴキブリである。この研究は国際的に高く評価されている企画的なものである。しかし、本書は専門書ではない。中心課題は、ひとりの国際的自由人の国際的「出稼」の記録であり、かつ、ひとつの研究が完成してゆく様の赤裸々な記録である。読者は本書の専門的内容にとらわれる必要はかならずしもない。ひとりの女性科学者が国際舞台を背景にして世界的に認められる仕事を成しえた経過と、研究者の喜びと苦悩を、さらに激しい業績争いに明け暮れる世界の若手研究者の姿を読み取ることができるはずである。この意味で本書は貴重な研究記録である。ともかく、肩のこらない楽しい科学随想として本書をおすすめる。(481.5:U J)

## 朝霞分館だより

### 辞書体目録の新設のお知らせ

朝霞分館が開館しましてから、一年になります。この間、蔵書冊数も1万冊余になりました。これらの資料を探す手がかりとなる閲覧者用のカード目録(本学では辞書体目録と分類目録)の整備が遅れておりました。このため利用者の皆さんには不自由をおかけしてまいりましたが、近々、辞書体目録が分館で利用できる運びとなりました。これですでにあります分類目録と合せて、閲覧者用のカード目録が揃うことになります。

なお、辞書体目録と分類目録の利用方法については、今号のKOΣMOΣ (Vol. 13, No. 1)に折込みの「カードによる図書探し方」や「図書館利用のしおり」をご覧ください。なおその他くわしい点については、係員に気軽にどうぞね下さい。

## 工学部分館だより

### Gmelin Handbuch の講入中止

工学部分館では、今まで継続購入していた Gmelin Handbuch を中止することになりました。これは無機化学の分野において、世界的にその価値を認められたハンドブックです。これは一つ一つの化学物質について、それに関する研究成果を丹念に集め、整理し、体系化したものであり、現代のように絶えず資料が増大していく時代にあっては、常に新しい分冊が生み出されていかざるを得ません。速報性を重んじる Chemical abstracts とは違った意味で、過去の研究の集大成を顧みるためには、単に化学のみならず、自然科学全体の研究のために、なくてはならないもの

なのです。現在では、年間約15冊、金額にして約250万円となっていますが、これだけで工学部分館の全図書費の1割以上もの支出となってしまいます。これは少ない予算の中で、やりくりしている分館にとっては、もはや持ちきれない額なのです。

分館は、先に、有機化学ハンドブックの Beilstein を中止しましたが、今また無機化学の Gmelin をも中止せざるを得なくなったのです。これは工学部の教員及び学生の研究活動に、かなり影響を与えることでしょう。このような資料の購入のためには、単に一般の図書費をあてるだけでなく、大学全体としての特別な配慮が必要であることは明らかです。そのことを痛感しつつ、以上の報告を致します。(分館中村記)

## 図書館長選任規程について

館長の選任については、従来『学長が教授の中から大学協議委員会の意見を聞いて稟議し、理事長が委嘱する』と規程し、これによって選任されていた。然るに、この制度に対して図書館運営委員会に於て数年に亘って種々の問題が提起されてきた。その中主要な三点を挙げると、

- ① 一般公開性に欠けている事。
- ② 学長の恣意性による選考度が強い事。
- ③ 館長選任に関して、各学部の果す役割がない事。

などがある。それと同時に館長権限の不明確な点も併せて指摘されてきている。

それらの諸意見を反映して、制定されたものが『東洋大学附属図書館長選任に関する規程』（昭和52年12月16日施行）である。今回発令の飯島宗享館長（昭和53年4月1日付）はこの規程によって選任された。

本規程の特徴として挙げられるのは、「東洋大学図書館長選考委員会」を組織することと、「委員会は各学部（教養課程委員会を含む）より推薦された館長候補者について選考を行う」との規程し、教授であるか否かの基礎資格が明記さ

れていない事である。その選考委員会の構成を見ると

1. 各学部長（教養課程委員長を含む）
2. 大学院委員長
3. 各学部（教養課程委員会を含む）選出の専任教員各一名。
4. 分館長
5. 副館長

となっている。

それらの事柄は、次の各項の意味をもっている。

- ① 選考委員の構成に学部長がいるのは、館長の位置が学長に次ぐものである事を示唆している。
- ② 委員構成が全学の意向を反映できるようになっている。
- ③ 選考委員会が、館長にふさわしい識見を有する人物と認めば、教授のみならず、職員・学外者であっても支障のない事を示唆している。

尚館長権限については、懸案として今後検討すべき事項として残されている。

## 蔵書から

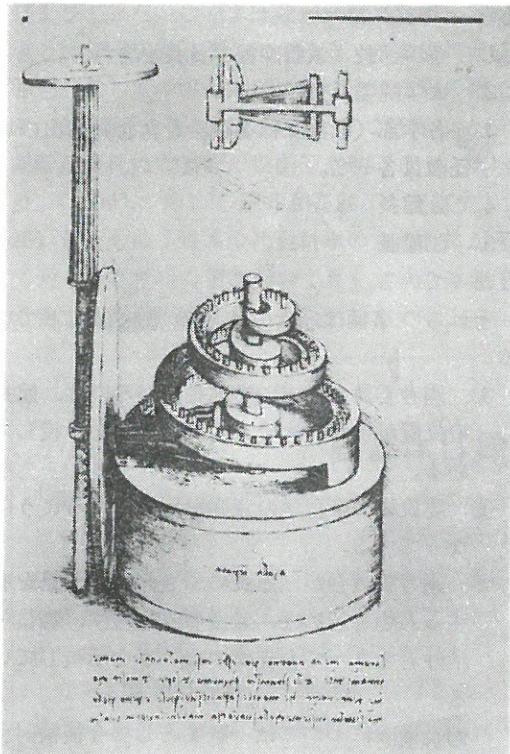
### レオナルド・ダ・ヴィンチの二つの手稿

(Leonardo da Vinci, 1452—1519)

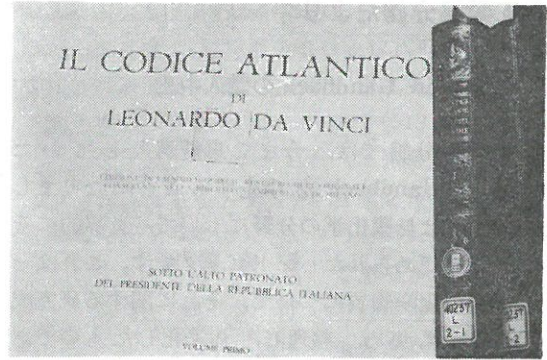
- ① Il codice atlantico (402. 37 : L)  
(Firenze, Giunti, 1973—1975. 12v., 61cm)
- ② マドリッド手稿 (402. 37 : L : 2)  
(東京, 岩波書店, 1975. 5冊, 24cm)

文学部講師 真鍋 将

画家としてのレオナルド (1452—1519) に就ては誰でも多少の知識を持っているが、彼の他の側面 (科学者, 技術家, 哲学者を見る人もいる) は必ずしもよく知られてはいない。数少ない絵画作品 (それらすべてが名品!) のほかに彼は二万頁にも及ぶ手稿を書いたと推測されている。現存の五千頁は絵画作品の背後に潜む彼の近代的精神を如実に示しており, 僅か上記二種の手稿すら, 読む者を茫然たらしめるほどの内容を持つ。彼の遺品はその所を得るまでに不幸な曲折を閲した。遺贈を受けた弟子フランチェスコ・メルツィは遺品



マドリッド手稿 I. 45r. 均力装置付きパネ



(左) アトランティコ手稿 タイトルページ

(右) マドリッド手稿 I, II 背表紙

の殆どを死蔵し, メルツィの死後それらは急速に散佚し始めた。今辛うじてその 1/4 が, 伊・英・仏・スペインの四ヶ国に秘蔵されている。手稿の内容研究が行なわれるようになったのは漸く 19 世紀であり, この間数世紀を飛び越えた精神の驚くべき業績は, 殆ど知られぬまま科学の進歩に果すべき先駆者の役割を失ったのである。

アトランティコ手稿 (以下 Atl.) は 16 世紀末スペイン人ポンペオ・レオーニが入手編集したもので, 1636 ミラノのアンプロジオ 図書館蔵となるが, 1796 ナポレオンによりフランスに持ち去られ, のち返還された。1894 以来今度で四回公刊されている。文字通りの断簡零墨を大判の紙に収めたもので, 余白の方が広い, ゆったりした造本である。マドリッド手稿 (以下 Mad.) は 1642 スペイン王室の所有となり, 1830 頃王室図書館 (現マドリッド国立図書館) に登録された際原本付番の記録を誤り, この食い違いのために失われたものと見なされて一世紀を経た。1964—65 の冬, 綿密な探索の結果書庫内に発見, 今世紀最大の発見の一つとされる。Mad. は小型で 2 冊から成り, I は力学 (理論と応用) の計画された著述であり, II は多くの問題にわたる雑記帖風である。今回が初めての公刊で, 日本を含む七ヶ国で出版された。刊本は原手稿 ファクシミリ, 翻刻とその翻訳, 解題の三部構成である。Atl. と Mad. 両者には対応関係が見られる。Atl. の素画が Mad. I 後半で念入りな図となっているものや, 両者対照して始めて内容のわかるものもある。Mad. 解題に対照表が載っているため比較が容易である。

手稿はレオナルド その人の 思惟の 氣息を 伝える。左利きのため鏡像文字で書いているのが奇異に映るが、各葉まず図が描かれており、文章は必要に応じてその説明として書かれている。これは技 (arte) ではなく学 (scienza) としての絵画を主張し、芸術家に科学者たることを求めたこの人の「眼と手による思惟」の 実践と言えよう。「絵画を軽蔑する者は哲学をも、また自然をも愛してはいない」(アッシュバーン手稿 I, 杉浦明平訳) と言うとき、彼は描くことを思惟することと別の営みとは見ていないのであり、素描に直観的抽象という思惟の性格を見出しているのである。ラ・ジョコンダの微笑や人工飛行の夢と工学的機械装置を併せ思うとき、人は人間と自然の境界がひとりの人間に於てかくも多面的に、しかも極限にまでつきつめられるものかという感動を抑え切れぬ。彼は幼時、大鳥がベッドの上を舞い飛び、その尾が唇に当たるかのような夢を見た。生涯を通じての鳥の飛翔に関する観察と飛行機械の研究は、羽ばたき飛行という失敗を約束された方向に進んだとはいえ、或いはそれだけに、人間レオナルドの魅力を増している。

「ラ・ジョコンダ」は先年日本にも やって 来た。科学者としてのレオナルド展は四年前上野の国立科学博物館で催された。また「レオナルドの生涯」というテレビ番組も数年前に放映された。

この3月21日から4月23日まで、手稿の図に基づく機械装置の復原模型が国立科学博物館に展示されている。上記の二種の手稿と併せ見る好機である。

## 参考図書解題

### 一 本 館 一

#### 音楽関係の参考図書

① 洋楽の本; 明治期以降刊行書目 小川 昂 編  
民音音楽資料館 1977 (762.303:OT)

明治から昭和50年末までの間に日本で刊行された西洋音楽に関する図書の目録で、7,620点を収録。

分類目録、児童図書、叢書、著者索引、書名索引、図表・数字で見た洋楽の本、著者原綴り表か

#### レオナルド・ダ・ヴィンチの著作

- レオナルド・ダ・ヴィンチ解剖図集 みすず書房 1971 (491.1:L)
- レオナルド・ダ・ヴィンチの手記 岩波文庫 1970 (047.7:L)
- Selections from the notebooks. Oxford Univ. Press, 1966. (723.7:L)

#### レオナルド・ダ・ヴィンチに関する著作

- ポール・ヴァレリー レオナルド・ダ・ヴィンチの方法 審美社 1972 (954.912:BP)
- Carlo Pedretti, Leonardo da Vinci; the royal palace at romorantin. Belknap Press of Harvard Univ. Press, 1972. (523.37:PC)
- Sigmund Freud, Leonardo da Vinci and a memory of his childhood, in *The complete psychological works of Sigmund Freud*, Vol. 11, Hogarth Press, 1968. (140:FS:1-11)
- カール・ヤスパース リオナルド・ダ・ヴィンチ 『ヤスパース選集』第4巻 理想社 昭和41 (134.95:JK:17-4)
- 児島喜久雄 レオナルド研究寄与 座右宝刊行会 1973 (723.7:KK)
- 久保尋二 レオナルド・ダ・ヴィンチ研究; その美術家像 美術出版社 1972 (723.37:KH) (その他数点)

ら成っている。

分類目録と児童図書では、ローマナイズした各見出し語の三文字を見出し語の前につけており、また読み難い見出し語の後には読み方がついていて引きやすい。

著者索引では各著者名にそれぞれの書名をつけ、また、書名索引ではそれぞれの図書の著者をつけ、索引だけでもそれぞれの著者・書名を知ることができる。また、著者・書名索引の各見出し語の前にも、ローマナイズした読み方がつけてあり、日本語の場合、頭の中でローマナイズするというしばしば陥る面倒さを防いでいる。著者原綴

り表は、本文や索引を見る際の補助として便利である。

図表・数字で見た洋楽の本では、明治・大正期に出版された音楽関係図書の点数と分野別の統計および各年毎の目録を掲げ、また明治11年から昭和50年までの約100年間の各年毎の出版点数を出して、この間の出版事情を知ることができる。

② 音楽事典 全5巻 平凡社 昭和39~40 (760.3:O)

クラシックからポピュラー、仏教音楽、民族音楽にいたるまで音楽全般を網羅的にあつまっている。小項目を主として、その間に大・中項目が配してある。おもな項目には参考文献を掲げ、また有名な作曲家については、作品のリストをつけている。

第5巻の約三分の一を和文と欧文の人名索引、事項索引にあてている。

第5巻の巻末に音律表、主要楽器音域表、外国の音楽団体一覧、楽器分類表、点字記譜法一覧、雅楽曲一覧表、能曲目一覧表、狂言名一覧表がある。

第1巻から第5巻まで通しページになっている。

—工 学 部—

The Living Earth.

アルダス版講談社自然シリーズ (408:A)

これは、たのしい絵本といったところである。自然の姿をあらゆる面からとらえ、注意深く観察し、わかり易く述べている。だからどの一冊をとっても、興味深く読むことができる。この叢書は今日の時代、我々をとりまく自然はどのような運命に遭遇しているだろうか？ また、それらは人間に対してどんな意味をもっているだろうか？ というような問いを我々に投げかけてくれる。

このシリーズに共通しているテーマは、生命である。地球をとりまいているさまざまな生命である。今日の人間活動は、自然界の動植物の微妙なバランスを、くずしつつあるという。大地のさま

ざまな環境、海洋・水中にひそむさまざまな生物、それらをカラー写真・カラー図表と共に、生態学の中のそれぞれの分野の専門家・研究者が解説している。

20巻の内容は、次のとおりである。

- 1: 生きている大地, 2: 生きるものたち,
  - 3: 生命の網, 4: 海の生命, 5: 川と湖,
  - 6: 山の生命, 7: 森林の生命, 8: 草原の生命,
  - 9: 砂漠の生命, 10: 極地の生命,
  - 11: 鳥の生命, 12: 植物の生命, 13: 微生物の生命,
  - 14: 自然の民族, 15: 大地の世界,
  - 16: 都市の自然, 17: 自然保護, 18: 環境汚染,
  - 19: 人類の未来, 20: 生態学の手引, 総索引.
- このシリーズは、工学部分館二階閲覧室に配架してある。

目 誌 (52年12月13日~53年3月25日)

- |          |  |
|----------|--|
| 12月19日   | 神奈川大学図書館 額賀清孝氏他3名<br>見学のため来館   |
| 31日      | 図書課 加藤トシ子退職  |
| 1月18日    | 第1回図書館長選考委員会 (於本館会議室)  |
| 31日      | 図書課 黒崎千鶴子退職  |
| 2月3日     | 第2回図書館長選考委員会 飯島宗享<br>教授館長に選出 (4月1日付発令)                                 |
| 27日~3月6日 | 工学部分館蔵書照合業務  |
| 3月2日     | 十文字女子短期大学図書館学学生15名<br>見学のため来館  |
| 4日~10日   | 朝霞分館蔵書照合業務, 併せて<br>休館  |
| 10日      | 福音館書店 時田史郎氏他3名貴重書<br>(絵巻物, 奈良絵本) 閲覧のため来館。<br>白山開架図書, 参考図書照合業務 20<br>日迄 |

編集後記

今回で私たちの担当は終了いたしました。拙い編集でしたが御寛願います。次号より、新編集委員がフレッシュな誌面をお送りする予定です。



# 東洋大学図書館での

## カードによる図書の探し方

(1978. 4. 15)

本を探すならまず目録を……遠まわりのようでこれが近道です。たとえ目指す本がなくとも、それに代る著作があり、関連する図書の所在へ導いてくれるのも目録の役目なのです。慣れると目録が単なる手段でないことにも気がつくでしょう。

本学の図書館には二種類の目録（辞書体目録と分類目録）があり相補って、またしばしば独立してこの役目をはたします。どちらも書き方は同一のカードですが並べ方が違います。そうしてそれぞれに異ったメリットを持っています。

辞書体目録は、図書の著者名（共著者・編者・訳者）、書名、件名（主題など）を、ヘボン式ローマ字綴りにおきかえ見出し語としてABC順にならべたもので図書館にある資料を著者名、書名、件名のいずれからでも調べられます。

分類目録は、図書を主題別にわけて記号を与え、その記号順にカードを並べた目録です。同一種類の主題についてどのような図書があるかを体系的に調べることができます。

例えば※Read, Herbert: 芸術の草の根, H. リード著; 増野正衛, 訳, という本は、著者名、書名、訳者名の他に、そのテーマから「芸術一論説」(赤字) という件名見出しと「704」という分類記号からも引くことができます。辞書体目録を引くと「芸術一論説」(件名), 「芸術の草の根」(書名), 「Read, Herbert」(原綴の著者名), 「増野正衛」(訳者名) とそれぞれの見出しのカードがアルファベット順に並んでいて、いずれから引いてもこの本の所在を知ることが出来ます。

これに対して分類目録は記号によって同じ種類の本を一ヶ所に集める役目をしています。芸術に関する論集は分類法により704に集まることを知っていれば704のところにReadだけでなく所蔵する限りの他の人々の芸術論集を発見することになります。

しかし、集めるといふ機能は著者名や件名にもあり、これもまた辞書体目録の利点なのです。表①は著者名見出しでコーリン・ウィルソンの著作

を探した一例です。分類目録と冊子目録（本の形になった所蔵目録）と比べてみると次のようになります。

表①

著者標目	書名	分類	冊子
Wilson, C.	アウトサイダー	904	3巻
——, —.	続アウトサイダー	904	3 //
	バーナード・ショー	932.7	3 //
	Encyclopedia of murder	319.12	4 //
	実存主義を超えて	934.7	3 //
	オカルト	147	1 //
	Ritual in the dark	933.7	5 //
	殺人の哲学	369.12	2 //
	性の衝動	141.74	1 //

このように分類目録で8ヶ所、冊子の所蔵目録でも5ヶ所に分散している記録を著者名カードで引くと一度で所蔵するすべての文献を一覧出来ます。この利点は現在編纂中の冊子目録において著者名索引優先の根拠ともなっています。同様の例を件名見出しで引いてみると表②のようになります。

表②

件名標目	著者：書名
〔芸術一論説〕	Fiedler, C. : 芸術的活動の起源
〃 〃	Freud, S. : 造形美術と文学
	日向あき子 : ポップ文化論
	加藤周一 : 芸術論集
	河田真一教授還暦記念論文集一言語・文学・芸術
	Marx, K. : 文学・芸術論
	——, —. : Über Kunst und Literatur.
	Read, H. : 芸術の草の根
	Schmoll : 芸術における未完成
↓以下十数点	(美術名著選書, 17)

ここでは「芸術—論説」という件名見出しの所に類書が一ヶ所に集められ Read の「芸術の草の根」を探す人が同時に Fiedler や Marx に到るまで幅広く関連文献を見つけることが出来るという利点が重要です。件名目録が充実してくれば分類目録は不要という意見の根拠がここにあります。ゆきとどいた件名目録があれば公害問題のようないくつかの分野にまたがる事項の研究や社会、歴史、文学などと分散するテーマを一同に集めることが必要な地域史の研究などに有効な役割をはたすことでしょう。

辞書体目録に重点をおいたため、分類目録の存在が弱くなりました。しかし大学図書館の多くは分類目録が中心で、冊子目録もまた雑誌を除くと分類順目録であることが多いようです。分類目録のしくみを知らなければやはり目録の使い方に限界があるでしょう。分類目録は分類記号を配列単位として並びますから、自分の探す本がどこに分類され、どんな記号で表わされているのか、例えば日本の図書館では標準分類表である「日本十進分類法」(=略称 NDC, 本学採用)は十進法の数字で区分され 100 哲学・宗教, 200 歴史・地理…に続いて芸術に関するものは 700 のところにまとめられ芸術についての論文集はさらに 704 の記号のところに分類されているのを知らないと探すことができません。そうして大学図書館をはじめ、個々の専門図書館になるとかならずしも日本十進分類法によっているとは限りませんから事はやっかいです。この道案内としてどこの図書館でも目録コーナーに分類法の主綱表位は掲げています。利用の乗にも、冊子の目録があればそのはじめの方にもこの見取図のような表があるはずです。ゆきとどいた図書館なら、さらにこの暗号表のような分類表にたどりつくための件名索引(=または事項索引)があって表のしくみが分からなくてもたどりつけるように配慮しているはずです。実はこの索引が揃って分類目録は本来の役割をはたすのです。しかし、現状ではほとんどの図書館が索引を配慮していません。ひとつの方便ですが和漢書に限ると分類目録と共に書名目録がある図書館は多い。そこで書名目録を使い、書名中にしばしば出てくる主題を表わす言葉(=Key word)

## 目録カード見本

請求記号 芸術—論説 一件名(赤い字で書いてある)

704 著者名(原綴り) Read, Herbert. 訳者名

RH 書名—「芸術の草の根, H. リード著; 増野正衛 訳 東京

2 岩波書店, 1963.

210p. 19cm. (岩波現代双書)

原書名: The Grass roots of art.

東洋大学図書請求票

館内閲覧番号	
哲 学科 / 学年 部 氏名 東洋太郎	
請求番号 704	書名 著者名(巻号のあるものは記入) Read, Herbert.
RH	芸術の草の根
2	

※ 太枠内のみ記入のこと。

請求記号をカードの通りに書く。

に注目し、これを索引がわりにして分類目録を使うのが慣れないうちは便利です。「芸術の草の根」、「芸術論集」……と Key word が出るたびに左肩の分類記号(=図書の請求記号でもあり、書架上の番地でもある)が同じ 704 であることに留意し「芸術」→704 とおきかえて分類目録を使うのです。この方式は、皆さんの知らない分類法で分類目録をつくっている図書館を利用する場合に有効です。

もっとも既成の分類表には冊子の巻末に相關索引がついています。日本十進分類法(和漢書の分類法として普及している)や D.C. 分類法(大学図書館の場合、洋書に使用することが多い)で目録をつくっている図書館なら、その巻末の索引を利用される方が正確です。

本学の場合、辞書体目録中の件名見出しカードがこの役目を代行しています。ただ Key word が件名見出しと合致する場合、件名の方を省略していることも多いですから、書名の Key word に留意して分類を知るという使い方は本学の目録体系でもはずせない手がかりになるようです。